2024 年 3 月 13 日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第５期 第１０回（通算６９回）

不登校から個別最適な学びを考える　ー学校と反対の学びの場を作ってみたらー

１．内容

・学びへの意欲を失った子どもたち

・日本の通常教育の課題

・一つの活動の中で様々な子供を包括するポイント

・LEARN プログラム（学校と反対の学びの場を考えてみた）

・未来の教育の方向性

２．所感

中邑先生から次々と投げかけられました。不登校には、学習やコミュニケーションの苦手感が潜んでおり、それは誰もが持っているもので、簡単に変わるものではない。医学の介入を拒否してでも、学校では ICT によるエンハンスメントや環境調整で支援すべきである。学校教育の中でも反復訓練を続ければよくなっていくという神話が潜んでいる。ところが、努力しても追いつけない、書くのが遅いなど、ちょっとの差で、友達との差は段々大きくなっていき、自信を失っていく子供たちがいるという現実がある。このような中、学校教育の設計、ノウハウの問題で、日本は国連からインクルーシブ教育に関して改善を求められている。日本では、のんびり考えることが出来ない、違うことに興味があり違うことをやっていることも許されない、個々の個性を殺してでもみんなについていかねばならない。子どもが等質であることを前提とした一斉指導が行われている。

例えば、漢字ドリルに取り組み時間を書かせたらどうでしょう、月に１度、電卓を持ち込んで算数のテストをしたらどうでしょう。個々の特性を理解したら、まだまだ通常教育で学べる子は沢山いるし、隠れ不登校も減る。算数だけは苦手、英語ができない、落ち着きがない、人前で話せない等、みんなが何らかの困難さを持っている。通常学級の中にも特別支援ニーズがある。

知識を得ること、記憶することを裸でやらないといけないと思っている人たちがいる。これをひっくり返していかなければならない。ICT 活用を含め学び方を多様にする、緩やかなシナリオ、ワクワクするシナリオ、学びの意味を理解させ、動機を高める学びのシナリオが必要である。

インクルーシブ教育のヒントは、目的・教科書やマニュアル・時間制限・協働・学び方の強制をしない、計画性なしでよい、親の協力と理解が不可欠である。そのプログラムの１つは家出。動画を見せていただきました。まずは初級編。５００円で４時間過ごす。ひとりで家出してもいいことになっているが、みんな不安があるから違う特性の子とくっついて家出をする。不安だからお互いを尊重しあわないと時間を過ごせない。その中で、様々な現実を知る。公衆電話から電話を掛けたら途中で切れた。３０分歩いた先の目的地は休館。カップラーメンの作り方を友達に教わった。家の中から飛びだして、おれ漢字読めない、ちょっとは地図知っていたほうがいいかな、人に話す練習しようかな、このままじゃやばいよな。人との比較ではない。そろそろ勉強でもするか、といったらやりだす。家

出するためには、ある程度知識がいることを、家の外、校舎の外で実感する。その次は電脳プログラム。そして修学旅行、などなど。

　最後に、未来の教育の方向性をお示しいただきました。時間・空間を超えたオンライン上の学びの場の実現、複数の学校をもって相互の行き来を認める、親や社会の理解。

　中邑さん、本日は、次から次へとグサッと突き刺さる超烈な投げかけ、そしてお示しいただいた未来の教育の方向性に共感をもった１時間でした。誠にありがとうございました。

以上